

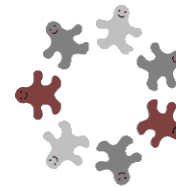


NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing

— JSPON —

News Letter Vol.33



2024年元日に発生しました能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、ご家族の皆様にお悔やみを申し上げます。そして被災にされた皆様にも心よりお見舞い申し上げます。また、被災された方々のためにご尽力されている皆様に深く敬意を表します。被害を受けられた皆様の安全と一日でも早く平穏な生活に戻られますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、日本小児がん看護学会のニュースレターをおよそ3年ぶりに発行させて頂きます。学会からの様々なお知らせがありますので、ご一読下さいますようお願い致します。

第21回日本小児がん看護学会学術集会の報告

第21回日本小児がん看護学術集会を、第65回日本小児血液・がん学会、第28回がんの子どもを守る会公開シンポジウムとともに「心と身体に優しい治療とケアをめざして」をテーマに北海道・札幌の地で開催しました。今年度は2023年9月29日(金)～10月1日(日)の3日間、ハイブリッド開催とし、さらに11月1日～12月22日まで、一般口演と一部プログラム以外のオンデマンド配信も行いました。

特別講演では、人類学をご専門とする道信良子先生に「子どもが小児がんを生きる—子どものいのちの視点から」としてご講演いただきました。

シンポジウムではがんとともに生きるAYA世代の「自分らしさ」や、子どもが本来もつ「力」を大切にする看護に焦点を充てた2つの看護シンポジウム、小児緩和ケアに関する2学会合同シンポジウムを開催しました。また三団体合同公開シンポジウムでは、当事者の方々と心を大切にケアのあり方を多面的な視点から考える機会をもつことができました。

その他、コミュニティ小児科学や家族レジリエンスに関する教育講演や、そらぶちキッズキャンプ施設見学ツアーなど、現地開催ならではの企画も行うことができました。

本学術集会には計1891人(医師1,064人・看護師352人・その他専門職416人・医学部学生・看護学生59人)にご参加いただきました(現地参加1,345人・Web参加546人)。また一般演題では49演題の口演発表が行われ、多職種での活発な議論が行われました。

企画・運営に関しましては行き届かない点が多々あったかと思いますが、ご参加くださったお一人おひとりにとって、自らの実践の場に活かしたいと思える時間を提供できていることを心から願うばかりです。

またあらためて、学会関係者の方々の多大なお力添えのおかげで、予定のプログラムを無事に遂行することができました。ご協力いただき、本当にありがとうございました。この場をお借りしまして、心から御礼申し上げます。

第21回日本小児がん看護学会学術集会長

松澤明美

北海道大学大学院保健科学研究院

創成看護学分野小児看護学教室

「日本小児がん看護学会認定 小児がん看護師」 制度の改定について

2019年12月に開始した「小児がん看護師」研修制度と、2021年より3年間行われた実践報告書の審査による「小児がん看護師」認定制度が、去る2023年9月30日の総会の決議を経て改定されました。改定内容は、下記のとおりです。

- ①研修制度は、小児がんの病態・治療及び、子どもと家族の療養体験の特徴を理解するためのe-ラーニング【基礎コース】【上級コース】と、集合研修【実践コース】で構成します。
- ②e-ラーニング【基礎コース】【上級コース】は、会員外にも広く提供します。集合研修【実践コース】は、本学会の会員かつ看護師のみが対象です。尚、【基礎コース】【上級コース】【実践コース】は、順序性があります。
- ③実践報告書による審査を行う「認定制度」を終了し、研修制度のみになります。
- ④新しい制度では、実践報告書による認定審査を行わないため、「学会認定 小児がん看護師」ではなく、「小児がん看護師」の名称は、【基礎コース】【上級コース】【実践コース】の3つのコースすべての修了者の呼称となります。また、制度の名称も、小児がん看護師制度から、小児がん看護研修制度に変更になります。
- ⑤会員の受講料は、【基礎コース】【上級コース】【実践コース】、どのコースも10,000円です。

【実践コース】はこの3月から、e-ラーニング【基礎コース】【上級コース】は4月より再開予定です。詳細が決まり次第、学会ホームページやメーリングリスト、公式ラインでお知らせいたします。

まだe-ラーニングを受けていない会員の皆様、是非ご参加ください。また、新しい制度では、非営利活動法人として公益性の高い事業になるよう、会員の方のみならず、小児がんの子どもと家族に関わる多くの方が参加できるように変更しましたので、コメディカルの方やボランティアの方などに、お声がけいただけると嬉しいです。

日本小児がん看護学会理事長

小川純子

★学術推進委員会セミナー報告★

学術推進委員会では、第21回日本小児がん看護学会学術集会2日目の9月30日にセミナーを開催しました。今回のセミナーは、『ケア・実践の成果を学会でシェアし、ふりかえろう～「研究」として取り組むことになぜ我々はひくのか～』というユニークなテーマで、2組のシンポジストによる話題提供とグループディスカッションを行い、73名の参加がありました。

シンポジストには、「臨床で働く看護師の看護研究及び学会発表への意欲について」と、学術推進委員会が研究支援として企画した【研究者と研究アドバイザーによる学術研究支援】に応募され1年間研究に取り組まれた看護師の方々から話題提供がありました。グループディスカッションでは、どのようなサポートがあれば研究が進められるかについて、幅広く種を蒔き自主性を重んじること・時間と費用の支援・アドバイザーとしての関わり・組織のサポート・フィードバックや承認の意見が出ました。これらの結果を受け、学術推進委員会では研究支援企画を引き続き行っています。

学術検討委員会委員長
河俣あゆみ

★こどものがん薬物療法における

曝露対策指針作成について★

ケア検討委員会では、2021年に「看護師の抗がん薬曝露に関するこどもや家族らへの説明」についての実態調査を行いました。その結果、入院中は外来や在宅での治療に比べて、曝露対策についてこどもや家族に説明を行っている施設は多いものの、その説明内容や程度については、こどもや家族を脅かさないように迷いながら行っていること、また施設間でその内容の違いがあり、手掛かりとなるガイドを求めていること、その背景にはエビデンスの少なさや小児特有の課題があることがわかりました。

翌年の学術集会のワークショップを機会に、関心を持ち参集して下さったメンバーによるワーキンググループを結成し、指針の作成に向けた活動を開始しました。小児の生活場面に合わせた対策について、臨床

現場の実状と課題や文献などの情報の共有・検討を繰り返しながら臨床で活用できる指針の作成に取り組み、2024年の学術集会で指針案を提案することを目指しています。

ケア検討委員会委員長
竹之内直子

★国際交流委員会企画

第2回国際セミナーのご報告★

第21回日本小児がん看護学会学術集会にて、昨年引き続き本学会の国際交流委員会企画の「第2回国際セミナー」を開催することができました。セミナーのテーマは『Pain management in paediatric & oncology』とし、英国ロンドンの小児病院であるGreat Ormond Street Hospital for Children, Pain ServiceのClinical Nurse Specialist、Rebecca Saul氏にご講演いただきました。

Saul氏は日本のがんの子どもたちの痛みが緩和されることを強く願って講演を受けてくださり、和訳の作業が短縮できるようにと、英語のスクリプトまで作成して講演にのぞんでくださいました。ご講演の内容は、痛みのメカニズムや薬剤の作用、痛みのアセスメント、がん治療による痛みの緩和、処置の痛みの緩和、痛み緩和のための非薬物療法、痛み緩和ケアの質向上に向けてのスタッフ教育など、専門性の高い多くのお話をしてくださいました。

非薬物療法として紹介されたBuzzy®は聴衆の興味をひいたようで、今後日本の子どもたちへの使用を浸透させていければと考えております。来年も、委員一同、会員の皆様の興味関心の深いテーマでの国際セミナーを企画していきますので、楽しみにしてください。

国際交流委員会委員長
平田美佳



◆学会事業年度の変更について◆

2023年度の総会において、事業年度の変更についてご承認いただきました。これまでは、12月に決算を実施、2月の監査、3月理事会審議を経て、学術集会内で開催される総会で当該年度の予算案審議と前年度の決算報告を実施していました。今回、10～12月の総会で、約1年前の事業報告ならびに会計報告、既に活動を終える時期の予算案の審議を行う妥当性、2年に一度の理事の交代後の新理事体制で前年度の事業費の決算を審議する適切性について審議を行い、会計年度を4月～3月へ変更、5月の総会で報告を行い、新理事へ引き継ぐご承認をいただきました。会員の皆様への会費納入の依頼時期は5月に変わります。今後も学会会計へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会計担当理事
永吉美智枝

★第19回小児がん看護研修会の報告★

2023年10月14日(土)、「こどもの症状マネジメント～考え方の基本を学ぶ～」をテーマに、「第19回日本小児がん看護研修会」を開催しました。今回は、埼玉県立大学 小児看護専門看護師 平田美佳さん、慶應義塾大学病院 小児看護専門看護師 熊谷裕美さんに、こどもまんなか、こどもを主体とした症状マネジメントに関する基礎知識および実践例の講義をしていただきました。午前中はハイブリッド開催としましたが、オンライン46名、現地18名の方にご参加いただきました。たくさんの方の参加、ありがとうございました。午後は、こどもの症状マネジメントについて考えるグループワークを行いました。現地参加された17名の方に参加頂き、自施設での取り組みや日常ケアの中で感じている疑問や難しさを語り、共有する場となりました。

オンライン研修の参加しやすさとともに、自由にざっくばらんに、小児がん看護を語り合う機会になる対面開催の醍醐味も実感しました。

教育委員会委員長
松岡真里

◆SIOP2023の報告◆

SIOP2023は、2023年10月11日から14日、カナダのオタワにて開催されました。Covid-19感染の不安や円安の影響からか、日本からの参加者は少なく、看護職で現地参加したのは数名でした。

トピックスとしては、支持療法(感染・疲労感・緩和等)、グローバルヘルス、看護の質向上に焦点が当たり、ファミリー・センタード・ケアやヘルステクノロジーもとりあげられていました。サイコオンコロジーのセッションでは、予後の厳しいAYA世代がん患者が最期のときをどのように過ごしたいかについて、家族や医療従事者に希望を表明するためのツールとして、'Voicing My Choices' という小冊子を開発した過程をアメリカ NIH の Wiener 博士が紹介しました。さらにオーストラリアやブラジルなど複数の国で使用されているという報告があり、日本での適用に関心をもちました。

最終日に SIOP ASIA の例会があり、シンガポールの Yan Yin, Lim さんから、2023年に SIOP ASIA nursing group を立ち上げたという報告がありました。また、国立成育医療研究センターの松本公一先生が次の大会の案内をされました(2024年6月22-25日、横浜にて開催)。ASIAの皆さんに来日していただいて、日本の小児がん看護の紹介ができるとうれいですね。



前日本小児がん看護学会理事長
国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻看護学分野
上別府圭子

◆第19回日本小児がん看護学会学術集会の報告◆

「ささえ愛、はぐくむ未来」をテーマに第19回日本小児がん看護学会学術集会をWEB開催しました。

オンラインライブ配信を2021年11月26日、27日、オンデマンド配信を2021年11月25日から12月17日に行いました。新型コロナウイルス感染拡大により、現地開催できなかったことは残念でしたが、オンデマンド配信により現地では難しい全ての演題を視聴できるメリットもあり、一般演題は62演題ありましたが、たくさんの方に視聴いただきました。

特別講演では作家の石井光太先生に「病気の前で<人>として何を求められているのか」と題して、先生の海外での活動を通して、エールをいただきました。シンポジウムでは「COVID-19の体験から何を学んだのか」をテーマとして、小児がん患者さんに関わる様々な立場の方に講演いただき、新型コロナウイルス蔓延が長引く中での苦労体験や思いを共有しました。また看護師の皆さんと子どもたちの思いを集めた「看護師のつぶやき」「子どもたちのつぶやき」では何か皆様の心に届くものがあつたと思います。

WEB開催の不安はありましたが無事に学術集会を終えることができました。ご出席・ご協力いただきました皆様に感謝いたします。

第19回日本小児がん看護学会学術集会長
大阪母子医療センター 田家由美子

◆第20回日本小児がん看護学会学術集会の報告◆

第20回日本小児がん看護学会学術集会は日本小児血液・がん学会との合同で、2022年11月25-27日に、前2日間は虎ノ門ヒルズフォーラムにて、最終日はオンライン形式にて開催されました(一部オンデマンド配信)。3年ぶりの対面開催に会場の発表もディスカッションも大いに沸きました。

学会のテーマは2学会共通で「小児がんの子どもと家族を支える和」。成人移行支援のシンポジウムも、2学会合同の固形腫瘍のシンポジウムも、多職種や子どもを含めた家族とのパートナーシップを軸に企画しました。教育講演でも、家族支援についてとりあげ、私も話題提供の機会をいただきました。学会の20周年を記念しての特別企画として、前理事長である梶山祥子先生と内田雅代先生に、学会設立前夜のことも含めて学会20年のあゆみをお話いただき、また各委員会が活動をまとめたパネルを展示しました。そのほか Posttraumatic Growth (PTG) についての特別講演や、Myra Bluebond-Langner 先生による死が近い子どもとのコミュニケーションに関する初の国際セミナー、厚労省の担当者や学会認定小児がん看護師(PON)となって活躍されている方をお迎えしての「第4期がん対策推進基本計画が『小児がん看護師』に期待すること」のシンポジウムも意味深いセッションとなりました。

登壇者の皆さま、プログラム委員会の先生方、参加者の皆さまのご協力に、心より感謝申し上げます。

第20回日本小児がん看護学会学術集会長
国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻看護学分野
上別府圭子





◆第22回日本小児がん看護学会学術集会のご案内◆

この度、第22回日本小児がん看護学会学術集会の大会長を務めさせていただきます 三重大学大学院の松岡真里と申します。このような機会を頂きましたこと、たいへん光栄であり、また、多くの方々のご支援に、心から感謝申し上げます。

第22回の学術集会テーマは、第66回日本小児血液・がん学会学術集会、第29回がんの子どもを守る会公開シンポジウムと共通の、「Always with You～がんの子どもに寄り添う臨床と研究」です。小児がんの子どもが治療を受ける毎日の生活の中で、少しでも安楽にその子どもらしく過ごし、成長発達を遂げること、そして、小児がんを経験しても、あるいは経験したからこそ、その先の人生を「自分」として健やかに生きることができるよう、質の高いケアを届けることが、小児看護の大きな役割です。そして、その質の高いケアのためには、研究的な取り組みによる最新の知見が重要となります。

今回の学術集会を、日常のケアと研究のつながりを実感して頂ける場にしたいと考えています。現在、一般演題の他、みなさんから意見を伺い、学術集会の場で何かを作り上げていくワークショップ型のプログラムも検討しています。開催時期が2024年12月13日(金)～15日(日)ですので、寒い時期の京都にお越しいただくこととなります。「参加してよかった」「京都に来てよかった」と感じて頂けるような、刺激的かつ温かい企画を、プログラム委員のみなさまとともに考えて参りたいと思います。多数の方の演題登録と現地参加を心からお待ちしております。

第22回日本小児がん看護学会学術集会会長
三重大学大学院医学系研究科看護学専攻
実践看護学領域小児看護分野 松岡真里

◆SIOPAsia 開催のお知らせ◆

2024年6月22日(土)から25日(火)までパシフィコ横浜ノースにおいてSIOP Asia 2024が開催されます。

SIOP Asia では、本体のSIOP 同様に看護のセッションも開催され、SIOP Asia 2024 では、6月23日(日)、24日(月)の2日間行う予定です。

また、SIOP Asia Nursing Group が立ち上がり、Asiaにおける小児がん看護の連携を深めていこうと動きはじめています。日本の小児がん看護をAsiaに発信すると共に、互いの小児がん看護について共有し、学び合う場になればと考えています。

参加登録は、2月2日(金)から始まっています。4月2日(火)まではEarlyBirdで参加費が安くなっております。是非お早めに登録をして下さい。多くの方々と、横浜でお会いできるのを楽しみにしております。

日本小児がん看護学会理事長 小川純子

◆役員・学会組織紹介◆

現在の理事・監事は、2022年秋に評議員選挙により選出された初めての役員です。今年度より、学会の事業年度が4月～翌3月に、役員任期が7月～翌6月に変更になるため、現役員任期は、2023年1月～2025年6月となります。会員の皆様にとって有益な学会運営を心掛けていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学会ホームページには、各委員会のメンバー、ミッションを掲載しておりますので、是非ご覧ください

日本小児がん看護学会役員一覧

理事長/プログラム委員会委員長	小川 純子
副理事長/広報委員会委員長	塩飽 仁
副理事長/教育委員会委員長	松岡 真里
理事/庶務	伊藤奈津子
理事/学術推進委員会委員長	河俣 あゆみ
理事/編集委員会委員長	小林 京子
理事/ケア検討委員会委員長	竹之内直子
理事/研修制度委員	富岡 晶子
理事/会計/研修制度委員	永吉美智枝
理事/編集委員	新家 一輝
理事/国際交流委員会委員長	平田 美佳
理事/研修制度委員会委員長	古橋 知子
監事	濱中 喜代
監事	渡邊 輝子

会費納入のお願い

2023年度の日本小児がん看護学会の振込みがお済みでない方は、お早目をお願いいたします。また2024年度の会費納入依頼は3月に行う予定です。

[会費振込み先]

郵便振替口座:00590-9-79689

名称:特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会

日本小児がん看護学会

理事長

小川純子

ニュースレター担当

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 塩飽 仁
日本赤十字豊田看護大学看護学部 大西文子
京都橘大学看護学部 堀妙 子

[連絡先] E-mail: hsiwaku@med.tohoku.ac.jp